

# サンディエゴ日本人教会トピックス【2019年7月】

7月と言えば、この時期サンディエゴでは街の樹木もやや緑の色を増し、本格的な夏の暑さとなります。サンディエゴの初夏のどんよりとした空も、白い雲が空いっぱいになり、雲の動きにも趣を感じ、子供達は夏休みに入る楽しい時でもあり、大いに羽を伸ばしています。

その後、皆さんいかがお過ごしでしょうか。神様の豊かな祝福をお祈りいたします。

今月のトピックスは次のものを掲載いたします。

1. アメリカの独立記念日 4th of July を修養会場で迎える
2. 中川祐真牧師と靖子夫人のアズベリー神学校への道
3. 礼拝メッセージのライブ映像

## 1. アメリカの独立記念日 4th of July を修養会場で迎える

アメリカでは 4th of July は国を挙げて独立記念日をお祝いいたします。この連休を利用して我が北米ホーリネス教団では、4th of July を挟んだ7月2日(火)から5日(金)までを夏期修養会場サンタバーバラのウエストモント大学で行われました。

サンディエゴ教会ではバスをチャーターし、教会挙げての参加を呼びかけ、数ヶ月前からバス・ファンド・レイズをしたり、横の連携を取り、声を掛け合いながら励んで参加しました。合計大人子供合わせて53人が当教会から参加し、皆さん素晴らしいお恵みを頂いてお元気に帰ってまいりました。



教会では特に修養会に行けなかった方々のため、CDが製作されています。大勢の皆さんが申し込み書に記入し、オーディオをとって、拝聴し、同じお恵みを分かち合って感謝の時を持っています。また、このCDを伝道に用い、お友達に差し上げたり、日本の家族に送ったりと大変有効に使っています。恵まれた修養会にハレルヤ！

## 2. 中川祐真牧師と靖子夫人のアズベリー神学校への道

夏期修養会の帰りに中川祐真牧師夫妻がサンディエゴ教会の礼拝に出席され、礼拝後のクラスで彼らのアズベリー神学校への道を証しされました。サンディエゴ教会員一同陰にあって、中川牧師ご夫妻のため祈りを持ってサポートして行きたいと一同お証を通して豊かなお恵みを頂きました。ハレルヤ！

# 中川祐真牧師

## ○ ごあいさつ

主にある兄弟姉妹のみなさま。このたびは、私たち夫婦のこれからの進路とビジョンをみなさまに分かち合うことができる機会を心から感謝いたします。

夫である祐真は、ハワイでの留学中に北米ホーリネス教団ホノルルキリスト教会で主イエスに導かれ救われました。その後、東京聖書学院で学び、神奈川県の日本ホーリネス教団秦野キリスト教会で牧師として奉仕しました。妻である靖子は、大阪府の日本ホーリネス教団高槻第一キリスト教会で育ち受洗。京都市役所で保健師として働いたのちに東京聖書学院へ入学しました。そして私たち二人は2019年1月に結婚へ導かれました。

私たちは今年9月より、アメリカ・ケンタッキー州へ夫婦で行き、夫である祐真はアズベリー神学校に入学し、メンタルヘルスカウンセリングを学ぶ予定です。このレターでは、私たちがこの学びへと導かれるまでの経緯をお伝えすると共に、主にある兄弟姉妹であるみなさまからのお祈りとお支えを賜りたく願っております。

## ○ これまでの経緯

牧師として教会で奉仕してまいりました三年間を通して、神様は私たち人間の体と心の健康を強く願っておられるお方なのであると知ることになりました。そのように至った最大の理由は、私が牧師となった最初の年に2つの教会を兼任するという奉仕環境と、自分の周囲の様々な人間関係から来る軋轢を主な要因として、バーンアウト(燃え尽き)を経験し、“うつ”になったことです。そのような試練を通らされた中から、『クリスチャンが霊的な側面のみならず、精神的、肉体的にも全て整えられて、主イエスとともに歩む信仰生活をサポートするための働き』が、これからの日本人への宣教に極めて重要であると強く感じるに至りました。

そののち2018年1月に、母校である東京聖書学院から、アズベリー神学校への留学のお話をいただきました。アズベリー神学校では、メンタルヘルスカウンセリングの学びをすることができることを知り、これは神様からの学びへの招き

であると信じて従うことにいたしました。そして、東京聖書学院から正式に推薦をしていただき、アズベリー神学校へ出願し、2019年3月に入学許可をいただきました。現在は、今秋からの渡米に向けて備えをしている段階であります。

## ○ 私たちのビジョン

旧約聖書 列王記 第一19章で、預言者エリヤは「主よ、もう十分です。私のいのちを取ってください」(4節)と口にしました。エリヤはこの時、自分の死を願うほどに人生に希望を見出せなくなっていたのです。これは明らかに”うつ”の症状です。主の使いがそんなエリヤに対してこの場面でなされたこと、それは、エリヤに祈りの足りなさを教えたり、神のことばを今まで以上にもっと聞いて従うように諭したり、あるいは、ますます奉仕に自分の身を捧げるように説くといったことではありませんでした。この場面で主の使いはエリヤに「焼け石で焼いたパン菓子」と「水の入った壺」を与えられました。そして、ゆっくり横になって眠ることをエリヤにゆるされたことがこの聖書の場面からわかります(6節)。そうして主の使いはエリヤにこう言いました。「起きて食べなさい。旅の道のりはまだ長いだから」(7節)。

神様はこの時、エリヤがどうしたらもう一度立ち上がって、神様から与えられた目的のために人生を再び歩き出せるかを誰よりもご存知でした。神様はエリヤの霊的な側面だけに限らず、心と体の必要も全て満たされて生きていくことを心から願っておられたのです。エリヤは主の使いから与えられたパンと水、そして十分な休養によって力を得ることができ、過酷な荒野を四十日四十夜歩き通し、神の山ホレブにたどり着いたと聖書は記しています。

私たち夫婦は、パンと水を与えられ、私たち人間の心と体の祝福を願っておられる神様の働き的一端を担いたいと強く願っております。今の時代、日本の教会はなかなか宣教の実を見ることができず、牧師も信徒も肉体的・精神的に疲弊している者が多数います。それに加えて、日本人の人間関係が生み出す独特な圧力によって、教会の内でもつまづきや痛みを覚え、心を病む人々も少なくありません。それゆえ、これからの日本人への福音宣教のためにメンタルヘルスカウンセリングの働きが大いに用いられると私たちは信じてやみません。今後私たち夫婦は、日本人の救いのために神のことばを語り伝えることに加えて、神様から与えられた長い人生の道のりを、多くの問題や軋轢が存在するこの世で、一人ひとりが歩み通すことができるように、人々の心と体の健康と祝福のために奉仕してまいりたいと心から願っています。

# 中川靖子夫人

2019年7月7日北米ホーリネス教団サンディエゴ教会でのお証

はじめまして。私は中川祐真の妻の靖子と申します。私たちをあたたかく迎えて下さり、このようにお証をさせていただく機会を与えてくださり、心から感謝いたします。今日は、私がどのような者で、これまでどのように導かれたのかを少しお話させていただきたいと思います。

私は、日本の大阪府にある高槻市で、クリスチャンである両親のもとに生まれ、母のお腹にいるころから教会に行っていました。母教会は日本ホーリネス教団高槻第一キリスト教会です。神様のただ憐みにより、自身の罪がわかり、悔い改めて、小学校2年生の冬に受洗をしました。その後の信仰生活は、迷わず神様だけを見つめて育ったというよりは、救われた確信がもてない時期もありました。そういう歩みのなかでも、イエス様を受け入れて、神様を信じることができたのは、自分がというよりも神様がそのように召してくださり、周りの祈りとお交わりがあったからだと思います。

その後、大学は看護学部を選び、京都市役所に保健師として就職し、保健福祉の仕事をしました。

5年目の二か所目の職場で、高齢者福祉のケースワーカーとして働きました。そこで、主に、高齢者の虐待への対応、病気や経済的理由などで、生活できなくなった方の相談、支援を行う仕事をしました。

また、100歳のお祝い事業も担当し、100歳の方にもたくさんお会いしました。そのなかで、私はそれぞれの方の長い人生の歩みを経た、いろいろな姿を見ることがあり、また、その人の生活のなかに深く関わる事も多くありました。地域やコミュニティから孤立している方が多くいました。なかにはギャンブルや買い物、お酒、また家族関係で依存し、健康を害し、生活が立ち行かなくなっている方たちがいました。「酒とたばこを止めたら死んだほうがマシや」と緊急入院した病室でうつろな顔で言う男性もいました。

私は、次第に、直接、魂の救いのために働きたい、イエス様の愛で手を差し伸べることができる人が一人でも増えて欲しいと思い、神学校である東京聖書学院へ学ぶことが神様の御心か祈り求めるようになりました。そして神様から献身の召しの御言葉（イザヤ 51 章 1～5 節、マタイ 28 章 20 節）をいただきました。

また私には、教会に対する思いもありました。クリスチャンで教会にいながらも、教会の人間関係で傷つき、思い煩いや疲れを覚える。また、和を重んじる日本で特にその傾向があるかもしれませんが、この世の価値観や雰囲気流され、自分を責めても、心から相談できずに葛藤や生きにくさまでも抱えていることがあると思われています。イエス様が来られたのは、羊が命を得、それを豊かに持つためであるというように、私も人が救われ、救われたクリスチャンがそのいただいた命を豊かに生きるために、イエス様の働きに加えさせていただきたいと思うようになりました。（ヨハネの福音書 10 章 40 節）

しかし、献身にあたって、葛藤がなかったわけではありません。私には、家族の事や自身の経済面に葛藤がありました。献身するということは、神様が遣わす場所にどこにでもいかせていただくということ、それは老いていく親のそばに居てあげることができないということです。保健福祉の仕事をしていましたので、具体的に加齢による生活のしづらさや老後にどれ程のお金が必要かということもわかっていました。その思いのなか神様に祈ると、御言葉が与えられました。

「ですから、私はあなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは教会のことです。私はあなたがたのために神からゆだねられた務めに従って、教会に仕える者となりました。神のことばを余すところなく伝えるためです。（コロサイ 1 章 24, 25 節）」

イエス様が教会のために苦しんでおられる、ともに靖子、苦しんでくれるか？とイエス様からお声をかけられたように感じました。その後も何度も揺れるときに御言葉が神様の私に対する導きの確信となっています。

東京聖書学院の 1 年訓練コースに入学し、入学後も牧師としての召しは与えられなかったため、信徒として歩むため、一年後に卒業しました。そして、神様の導きにより、祐真さんと結婚しました。

祐真さんと初めてふたりで出会ったときに、祐真さんのビジョンを聞いて、とても私のビジョンに似ていて驚きました。それは、靈的なことばかりでなく、身体と心も整えることが神様の前に必要であり、メンタルヘルルスケアが教会にとって、福音の前進の手助けになる、そういう学びがしたいとのことでした。私も人の人格と信仰成長、教会形成について考えていたので、神様の導きを感じました。

そして祐真さんのアズベリー神学校での学びのため、夫婦でアメリカのケンタッキー州に行こうとしています。経済的なこと、日本人の少ない異国での暮らし、私は英語がうまく話せないなど、不安は数えると、きりがありません。

今の歩みは、どのようにしたら正しいのか、神様の御心なのか、わからないことがたくさんあります。そのなかで御言葉が与えられています。

「今、もし私がみこころにかなっているのでしたら、どうかあなたの道を教えてください。そうすれば、わたしがあなたを知ることができ、みこころにかなうようになれる。この国民があなたの民であることを心に留めて下さい。

主は言われた。「わたしの臨在がともに行き、あなたを休ませる。」（出エジプト 33 章 13、14 節）」

これから私たち夫婦の働きがどのような具体的なものになるかはまだまだわかりませんが、ともに居てくださる神様がその都度、これをしないさいと言われる場所、事を行わせていただきたい。ただ神様の栄光と誉が現れる夫婦として、働き人となれようと願っています。私たち、夫婦のためにこれからもお祈りくださると、とても嬉しく感謝に思います。

### 3. 礼拝メッセージのライブ映像

**あなたが世界中のどこにいても、参加できる大倉信先生の礼拝メッセージ！**



サンディエゴ教会では、毎週の礼拝メッセージをインターネットのポッドキャストで聞いたり、ライブ映像で見たり、メッセージの全文を読んだり、色々な方法で礼拝に参加することができます。

アメリカにお住まいで日本語メッセージを聞けない地域の方々、日本や、他の国々にお住まいの方々、そして旅行や健康上の理由で当日教会へ行けない時などは、とても便利です。スマホやコンピューターのインターネットから、何時でも、何処にいても、自由に教会ウェブサイトの日本語ページからご覧いただけますので、どうぞお試しくださいませ。

●ライブ映像米国太平洋時間 (Pacific Time) 9am

<https://boxcast.tv/channel/qcoczgsn02ddnmssdjcc9>

●教会ウェブサイト【日本語ページ】 <https://www.sdjcc.net>

●ポッドキャストで聞く <http://sdjccjp.podbean.com>

●全文を読む「世俗牧師宣言」 <https://www.sanbi.us/pmac/>

ラッドとし子